

# 令和3年度第3回仙台市宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和3年度まちづくり活動助成事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和4年2月9日(水) 午後6時30分～7時40分  
場 所：宮城野区中央市民センター3階 第3会議室  
出席者：井上委員長、佐藤副委員長、有坂委員、葛西委員  
庄司委員、まちづくり推進課

## 1 開会

※新型コロナウイルス感染予防による入れ替え制での開催のため、委員長挨拶・評価委員の紹介・概要説明は省略。

## 2 事業報告及び質疑応答

### (1) 事業名：貞山運河と新浜の魅力アップ事業

団体名：新浜町内会

#### <質疑・意見>

- 委員 ①3年間やってみて、町内会の皆さんからどのような評価・声があがっているのか。  
②今後4、5年目以降の中期的な計画として、町内会としてどのような形での賑わいづくりをすすめていきたいと考えているか。  
③このイベント以外で住民と参加者の間に交流がうまれたか。
- 説明者 ①町内会役員を中心に好意的に活動をしてくれた。町内会だけでなく、中心部の方々や大学の先生にも関心をもってもらえたことは嬉しかった。  
②町内会の副会長が「みんなの家」の館長も担っているため、そこを中心に浜辺を歩くイベントの開催等、すでにいろいろと取り組んでいる。  
新浜は「みんなの家」がようやく皆さんに認知されてきている。「みんなの家」をメインにしたパンフレットも作成しているので、これからもっとたくさんの方々に来ていただきたい。  
③新浜に移住する人や新浜地区の認知についてはまだまだなので、いろいろな仕組みを利用して取り組んでいきたい。
- 委員 是非とも「みんなの家」を交流の起点としていってほしい。
- 委員 3年かけて新浜の魅力を私たちも少しずつ分かってきた。  
「みんなの家」や「メモリアル交流館」等を含めたまち歩きモデルコースを作り、地図にしてみるのはいかがでしょうか。  
ウェルカムな姿勢を出すと、「行ってみようかな」という気になると思うので、これからも頑張してほしい。
- 説明者 宮城野区と若林区の海岸をこれからも盛り上げていきたいと思っているので皆さんの応援をよろしくお願ひしたい。
- 委員 震災後、住民が減少したり自然が変わったりしたことをきっかけとして事業を立ち上げて、魅力を伝えたいということが事業を始める時の目標だったかと思うが、現時点でどのくらい目標が達成されたと感じているか。
- 説明者 訪れる人は増えたと思うが、調整区域に指定されているという理由もあり、住む人は増えていない。このままでは現地再建したのに過疎地になってしまう。私たちは魅力アップに努めてはいるものの、なかなかつながっていない。
- 委員 定住という視点以外で、賑わいづくりの目的は達成されたと思うか。

- 説明者 テレビに取り上げられたり、オリンピック聖火リレーの最終地点となったりとすごく盛り上がった。そういう面では、目標は達成されたと思う。  
しかし、私たちとしては定住者の増加が一番の目標であるため、これからも引き続き取り組んでいきたいと思っている。
- 委員 定住者を増やすのは、長期的な目標になると思う。町内会の存続も大変になってきている状況ではあるが、皆さんが基盤をつくり、若い人へもつなげていってほしい。

## (2) 事業名：X橋と駅東の歴史文化の伝承・共有プロジェクト

### 団体名：X橋保存会

#### <質疑・意見>

- 委員 伝承活動自体が目的とならないような活動にしてほしい。新旧住民の交流や地域コミュニティづくりというものに伝承活動が利用されるといいなと思う。  
コロナ禍で大変だったと思うが、新旧住民の交流がどの程度進んだと実感しているか、また、この地域がもっと活気づくために何が必要だと思うか、教えていただきたい。
- 説明者 大学生に今後のイベントに参加、お手伝いをしてもらおうと考えている。また、専門学校が多くある地域のため、イベントを開催する際には声かけし、駅東地区全体の交流の場としていきたいと考えている。
- 委員 ①モニュメントのワークショップを数回開催しているが、ワークショップの中でこれから使えそうなアイデアがどのくらい出たか  
②モニュメントは資金が集まらないと作れないと思うが、資金面は今後どうしていくのか。
- 説明者 ①モニュメントの中にQRコードを入れて、X橋の情報を載せたいと考えている。  
②資金面は今現在どのくらいかかるかというのは確定していないが、資金について困ることはないと考えている。
- 委員 モニュメントを作成する時にも大学生が参加するという取り組みもいいかと思う。
- 説明者 それも考えているが、コロナ禍ということもあり検討中である。
- 委員 X橋を若い人にも伝えていくことは難しいと思うが、どう考えているか。
- 説明者 「X橋」というキーワードではなく、「X=交わる」というキーワードにして、今後イベント等を開催して伝えていけたらと思う。

## (3) 事業名：つるがや野菜のフードバンク

### 団体名：つるがや畑プロジェクト

#### <質疑・意見>

- 委員 畑を作りながらコミュニティづくりをするためにはじめた活動が「フードバンク」と名乗ってしまったがために大変なものとなってしまった。本来は「楽しみながら」コミュニティづくりできることが良いと思う。  
困っている方への支援とあるが、「困っている」基準はどのようなものだったか。
- 説明者 地域包括支援センターやリーフ鶴ヶ谷が相談に行く方々に支援した。  
基準としては、生活保護受給者であるかに関わらず、本人が「困っている」という状態であるならば、支援の対象とした。  
HPを見た、と直接フードバンクの依頼の電話がくることもあった。  
支援をした家庭から、今抱えている問題を相談され、適する機関へつなぐこともできたことは思わぬ成果だった。
- 委員 まちづくりの大原則は「やれることをやる」「押し付けない」である。無理せず長く活動していってほしい。  
現在検討中とのことだったが、2、3年目の計画や若い世代とどう関わっていくか、

考えていることがあれば教えていただきたい。  
また、この事業は包括支援センターのコーディネーターとしての役割が大きかったと思うが、今後も包括支援センターは関わっていく予定なのか。  
説明者 包括支援センターとリーフ鶴ヶ谷職員の方々の力を大いに借りて今後も頑張りたいと思っている。

(4) 事業名：ケアブレンドカフェミヤギノ

団体名：特定非営利活動法人ケアブレンド

<質疑・意見>

委員 学生が多く集まって交流できたことは良かった。このイベントで築いた学生の輪を利用して、多職種の交流につなげると良いのではないかと思う。学生をターゲットにした職種の方々を巻き込んだ取り組みをやってみたい。

また、若い世代をターゲットにするのであれば、開催方法や時間、曜日、ツールなど若い世代に合ったもので展開して欲しい。

委員 ①高校生が多く参加しているが、どのようなきっかけ、アプローチをしたのか。

②NPO 法人の会員はこの1年でどのくらい増えたか。

説明者 ①社会福祉協議会が発行している「にこボラ」(ボランティア募集情報誌)を介して集まった方々がほとんど。また、高校に直接お伺いしたことで参加いただいた方もいた。

②2、3名ほど。

委員 継続的に活動する上で会員は非常に大切である。参加者を集めると同時に協力者も増やすような取り組みも頑張りたい。

委員 助成金で購入した書籍、児童書、児童遊具の保管場所はどこか。

説明者 事務所に保管している。

委員 消耗品、交通費の具体的な内容を教えていただきたい。

説明者 消耗品は感染症対策用の物品やプラ板づくりに使う物品などである。

交通費はガソリン代である。

委員 イベント時、現場にボランティアの統括・指導を行う正会員は何名ほどいるのか。

説明者 カフェの開催時期にもよるが、2、3名ほど。

委員 今後、開催場所を広くしていくのであれば地震等何かあった時の危機管理として2、3名は少ないと感じる。

皆さんは全ての人の居場所づくりを目指しているのだと感じる。現在、高校生、若者など対象をしばっているが、今後対象を広げていくのであれば危機管理について考えてもらいたい。

委員 NPO 法人として届出した時の人数は何名か。

説明者 8名。

委員 先ほど3名増えたと言っていたが、8名とは別か。

説明者 別である。

3 閉会